



#医学書院の新刊



『medicina』2021年5月号 (Vol.58 No.6)

デジタル内科学の勃興

オンライン診療、AI、治療用アプリ

野村章洋＝企画

定価 2,860 円／B5 判・192 頁／医学書院／2021

新型コロナウイルス・パンデミックやデジタル庁の新設とあいまって、医療分野におけるデジタル化が急速に進んでいる。本特集では、一般の内科医・研修医だけでなく、広く医療に携わるメディカルスタッフも対象に、デジタル技術を用いた医療は、いまだのようなものがあり、どのあたりまで可能となってきたのか、また今後デジタル医療の普及に伴い、どのように医療が変わりうるのかを俯瞰する。



『公衆衛生』2021年6月号 (Vol.85 No.6)

COVID-19 が流行しない社会を目指す

社会医学・環境衛生学の視点から

定価 2,640 円／B5 判・68 頁／医学書院／2021

日本では、感染症の法制度が毎年改正されているが、新型コロナウイルス感染症に関しては十分な対応ができていない状況がある。現行の衛生行政や検疫システム、飲食店の取り締まり対策はかつての「コレラ」対策をきっかけに、保健所体制は「結核」の流行に対処するためにつくられたものだ。いま、これまでの社会システムと感染症対応を振り返り、医学以外のさまざまな領域の総力を結集して再構築・再強化することが必要である。“感染症が流行しない社会”とするための課題について分野横断的に考える。



『BRAIN and NERVE』2021年5月号 (増大号) (Vol.73 No.5)

中枢神経の自己免疫性・炎症性疾患ハンドブック

定価 6,380 円／A4 変判・256 頁／医学書院／2021

中枢神経の自己免疫性・炎症性疾患は、適切な診断・治療の可否が患者の予後を大きく左右する。決してコモンディーズではないが、臨床家として必ず最新の知識にキャッチアップしておかないといけないこの領域について増大特集としてまとめた。中枢神経の自己免疫性・炎症性疾患を扱ううえでぜひ手元に置きたい、このうえなく心強い1冊。

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート(p.910)にご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。



みるトレ リウマチ・膠原病 [WEB 版付]

第2版

松村正巳=著

定価 5,060 円/B5 判・190 頁/医学書院/2021

リウマチ・膠原病の診療では、身体所見と病歴を組み合わせで診断を考えることが重要だ。本書は、優れた診断医・内科医として知られる著者が、一般内科医の診断力アップのためにまとめた臨床問題集である。診断の鍵となる身体所見とともに、身体所見と病歴を組み合わせ、どんな鑑別疾患をあげ、診断を絞っていくかを学べる。学習管理システム「WEB 内科塾」を使用し、ブラウザでの閲覧・学習が可能に!



もしも心電図で循環器を語るなら

第2版

香坂 俊=著

定価 3,520 円/A5 判・200 頁/医学書院/2021

好評書『もしも心電図が小学校の必修科目だったら』(2013)が、よりわかりやすく、より面白く、生まれ変わった! 「心電図は苦手」と語る著者が、心電図を「循環器診療を読み解くツール」と定義し、徹底的な現場志向で解説。「スバズムはこの世に存在しない?」「ST 上昇のルールブック」「規則的で礼儀正しい SVT」…軽快な語り口に導かれ、いつの間にか循環器の真髄に迫っている!